

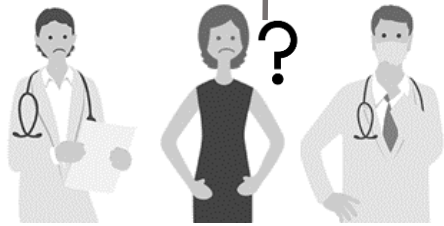
# 参考資料

令和3年6月4日  
厚生労働省

# データヘルス改革でわたしたちの生活が変わります

●病院を変えるたびに、昔受けた治療などを説明するのが大変

●飲んでいる薬や治療歴などを正確に伝えられているか不安



医師に、過去や他の病院での治療内容、健診結果を見てもらうことで、より適切な治療を受けられます

スマートフォンで薬剤情報や特定健診情報、医療費が確認できます

原因不明のがんや難病の治療をあきらめている



全ゲノム解析等によりがんや難病の新しい診断や治療法、予防など、個別化医療が進みます

こどもの頃の予防接種や妊婦・乳幼児健診の情報について、母子手帳を見つけないとわからない

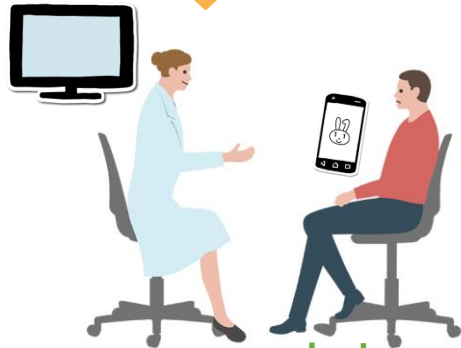


引っ越ししても、健診情報などの内容を転居先の自治体でも確認できます

予防接種や妊婦・乳幼児健診の情報をマイナポータルで確認でき、医師への説明がスムーズになります

母子手帳を紛失した場合の予備としても使えます

複数の薬局で薬をもらっているが、飲み合わせなどの相談を忘れてしまう



他の医療機関や薬局で出されたお薬を、薬剤師が把握できるようになります

飲み合わせなど、より丁寧な服薬指導を受けられます

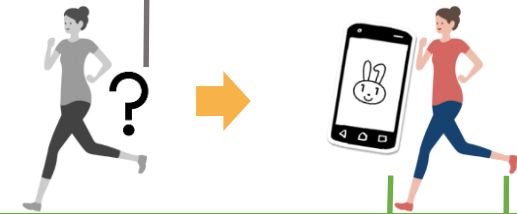
- ケアを受けていても、適切な内容なのか不安
- 自身にあった介護サービスを受けられているかわからない



高齢者の状態やケアのデータ分析が進み、個人の状態に応じた介護サービスを受けられます

過去から現在まで受けている治療・服薬情報を把握し、在宅でも施設でも、より適切なケアを受けられます

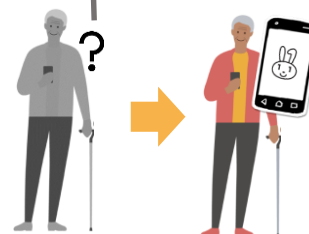
- 健診データは再検査等がないと見ない
- 健診データを健康管理に使おうとしても、転校や転職の際にデータが途絶えてしまう



生涯の健診情報を時系列に見ることで、自身の傾向がわかり、健康管理に役立ちます

医療専門職や民間PHRと連携し、自身に合った様々な健康サービスが利用できます

災害時や意識のない場合に治療歴やアレルギー情報などを伝えられず、適切な医療が受けられない



災害時に

もしもの場合に備えて治療歴や薬の情報をダウンロードしておく、必要な治療や薬の手配が適切にできます

乳幼児・  
妊婦健診  
予防接種歴

学校健診  
2022年度中～

事業主健診  
2023年度中～

特定健診  
2021年10月～

自治体  
検診  
2022年度早期～



薬剤情報  
(レセプトに基づく処方  
・調剤情報)  
2021年10月～

電子処方箋  
(リアルタイムの処方  
・調剤情報)  
2022年夏～

医療機関名や  
手術・透析等の情報  
2022年夏～

告知された病名  
検査結果やアレルギーの情報  
レントゲン等の検査画像  
介護の情報  
2024年度～

スマートフォンなどで見られるようになります



在宅

施設

通所

介護現場でも共有



臨床

手術

研究

医療機関でも共有